

教育目標	
「自分で考え、自分で動き、意欲をもって遊ぶ子どもの育成」 ○自己を発揮する子ども ○人とつながることを喜ぶ子ども ○主体的に遊ぶ子ども	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	<ul style="list-style-type: none"> 様々な体験的活動を通して、子どもの良さや集団の育ちを丁寧に見取り、必要な教育内容を考え、質の高い保育をめざした。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭において、少人数保育という課題に向き合い、異年齢での関わりに焦点を当てた保育実践に取り組んだ。その成果、子どもの姿や態度に現れる場面が見られた。 幼保小連携を考え、子どもの豊かな学びと健やかな成長のために、特に二条城北小学校との交流を中心に年間を通じた交流ができた。 自ら主体的に物事にに関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育むことへつながる保育ができた。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の熱意ある努力により、達成できている。 少人数保育の中、異年齢の幼児との関わりが成長に大きく影響している。最近では、異年齢の子どもと一緒に遊ぶ姿が見られなくなっているため、とても必要な保育である。 保護者は仕事をしている中、十分に子どもにかかわる時間が少なくなってきたように感じるが、その中でもできるだけ子どもとの時間をつくり、寄り添って親子で一緒に読書をしている。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月17日（金）	学校運営協議会理事
最終評価	令和8年3月5日（木）	学校運営協議会理事

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの育ちを幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から捉える ～少人数保育の異年齢で関わる生活を大事にする中で～ ● 週計画案と保育実践、評価の連動（PDCA）から、日々の保育の充実を図る。
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児が遊び関わる姿の変容、記録・週案の反省、評価の記述・事例検討 ● アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」「子どもは安心して幼稚園に通っている」「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 アンケート項目 お子さんは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしていますか・・・100% 安心して園に通っていますか・・・100% 幼稚園は、一人一人の子どもを大切にしていますか・・・100%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数保育の中で、異年齢で関わる場面を多く取り入れている。その成果として、子どもの育ちが豊かになっている。 指導者間で、保育内容や目指す子どもの姿を常に共有し、子どもの遊びを援助することで、主体的に自分から遊ぶ子どもが増えている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数保育の中で、異年齢での関わりを大切にし、さらに子ども同士が豊かな学びができるようにしていく。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 アンケート項目で高い評価をしてもらっていることをさらに維持できるようにしていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数なので、異年齢の子どもたちが関わり合う保育をしなければならないという考えではなく、異年齢の中で子どもたちの豊かな育ちを育むという積極的な捉え方で研究実践を積み重ねていく。 現在、核家族化が進み、兄弟も少なくなり、地域の公園などでの異年齢の子どもたちの関わり合いも稀有になってきている状況で、少人数保育幼稚園での異年齢保育は、子どもの豊かな学びと健やかな成長のために必要な取組であると評価している。

最終評価

	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価と改善点の記述・事例検討 アンケート項目の検討
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数の待賢幼稚園だからこそできる異年齢での関わりを意図的、計画的に作った。園児同士の関わりはどこに重点を置くのか、保育環境の構成や援助の方法を常に考えてきた。日々の保育の取組を振り返りながら、子どもの思いを受け止め、姿を丁寧に見取り、次の手立てを探りながら保育の改善を繰り返すことで、目指す子ども像の「自己を発揮する子ども」「人とつながることを喜ぶ子ども」「主体的に遊ぶ子ども」の具現化につながっている。 計画的な異年齢の接点から、個を意識した関わりが生まれ、その後の遊びや生活で自然な関わりにつながった。また、自分の好きな遊びの中での園児同士の接点が継続的に続いたりした。そして、自然な関わりが生まれるような保育の組み立て方（例えば、園庭で遊ぶ時間を同じにした）や、時間のゆとりをもった生活が必要なことも実施した。 異年齢のつながりや心の変化は、大きな行為や言葉に表れていなくても、子どもの姿を丁寧

	<p>に記録することで、たくさん生まれていることが分かった。全体として見ているだけでは捉えにくいものであり、教職員同士で子どもの姿を共有することで、担任には見せない子どもの姿を知ることができ、子どもへの願いの共有にもつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期から異年齢で過ごすことで、遊びに活気が生まれると共に予想しない出来事が起こり、いろいろな体験ができた。思うようにいかないことを経験しながら、相手を思いやり自分の気持ちをコントロールするなど、子どもの育ちにつながった。 ・ 次年度も少人数であるため、異年齢の子ども達が関わり合うことは必要不可欠である。 ・ 非常勤が多いので、担任以外の教職員と話し合う時間を設けるのは難しい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度も少人数であるため、異年齢の遊びを計画的に、また、日常の何気ない関わりを大事にし、子どもたちの育ちにつなげていきたい。 ・ 担任以外の教職員と共通理解を図るため、職朝の時間を大切にして子どもの姿を共有し、保育についてより広い目で見たい。 ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭において、少人数保育という課題に向き合い、異年での関わりに焦点を当てた保育実践に取り組み、自ら主体的に物事にに関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育む保育をめざしたい。
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活発表会の時に、年長と年少の園児と一緒に楽しそうに遊んでいる姿を見て、すばらしい保育ができています。 ・ 少人数保育の課題から、異年齢の子どもたちが関わり合う保育実践を通して、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に現れている。

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携・接続に向けた年間計画の作成 ・ 通園区域内にある幼保小中学校への保育公開及び合同研修 ・ 架け橋期のカリキュラムの作成と検討 ・ 「親子で絵本！」の取組の定着
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 架け橋ミーティングの実施や交流の事前・事後の検討 ・ 公開保育及び合同研修の実施 ・ 「親子で絵本！」のノート活用度 ・ アンケート項目「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二条城北小学校との交流…幼小連携接続会議、1年生体育科の授業見学 ・ 二条中学校交流…チャレンジ体験の受入 ・ 上京中学校交流…チャレンジ体験の受入

	<ul style="list-style-type: none"> 「親子で絵本！」のノート活用 アンケート項目 <p>「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」</p> <p>「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」…100%</p>
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に幼小合同研修会を実施し、幼稚園の保育について担任からプレゼンを行った。 今年度の幼小連携の取組を確認し、二条城北小学校の1年生体育科の授業見学を行った。 二条中学校と上京中学校のチャレンジ体験で中学生と園児との交流する場と時間を保障することができた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 二条城北小学校の体育科の授業見学のほか、生活科の学習交流、入学前の給食交流や授業の交流など、幼小連携接続の取組を進める。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> 交流の事前・事後の検討 公開保育及び合同研修の実施 「親子で絵本！」のノート活用度 アンケート項目「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 昨年度と同様に、小1の壁・不登校になっている児童の就学前施設での子どもの情報をフィードバックを共有できる幼保小連携接続という子どもを中心に据えた実質的で強固な連携接続を強く望む。 二条城北小学校で絵本の読み聞かせボランティア派遣している状況にあって、地域の子どもたちを地域で見守り育む取組の体制を維持していきたい。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> 年度当初から交流計画を検討できた。 体育科・生活科の授業参観と交流ができた。 給食交流もできた。 小学校の研修会の日（第4金曜日）に保育参観を行い、幼稚園の保育の様子を公開できた。同じ保育を参観することにより、事後研修会では子どもの姿の捉え方を話し合うことができた。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> 管理職同士が常に情報共有を行うことができた。 夏季休業中に小学校の研修会に参加して、待賢幼稚園の保育の様子を知ってもらうことができた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 園内展の参観者が少なかったため、次年度は増やしていけるように小学校と相談する。
学校関係	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園と小学校が離れているので、交流に参加しにくい中、お互いに交流しようとしている姿が感じられた。

者 評 価	<ul style="list-style-type: none"> 行事の時に、校長と園長と地域がお互いに会場で直接にいろんな話のできたので、安心して いる。
-------------	---

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程内とは違う遊びをはじめ家庭的な雰囲気の中で、個々の興味に応じた遊びを、ゆったり と安心して楽しく過ごせる環境構成を行う。 教育課程内の活動と連動した遊びや季節感のある活動内容を取り入れる。 地域人材の活用
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 預かり保育参加人数 預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り。 アンケート項目「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」

中間評価

	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> 預かり保育参加人数…14人中14人参加 預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り。 アンケート項目 「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」…100%
自 己 評 価	分析 (成果と課題) <ul style="list-style-type: none"> 4歳児3名、5歳児11名のどちらも少人数学級であり、保護者の多くは、異年齢の子ども同 士の関わりや同性の子ども同士の関わりなどを預かり保育に期待されているなか、14名全員 預かり保育を経験できた。 預かり保育担当者と担任で、個々の子どもの様子や家庭との連携など情報共有し取組に生か すことができた。 外部講師による預かり保育サッカー体験の日の預かり保育参加者が多かった。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> 預かり保育時に子どもの遊びや子ども同士の関わりを豊かにするために、外部講師を招いた 預かり保育サッカー体験や、つくって遊ぼうの日を設定して外部講師を招いた取組も続けて いくようにする。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 預かり保育参加人数 <ul style="list-style-type: none"> 預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り アンケート項目「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」
学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> 預かり保育1時間当たり100円で、保護者としては大助かりである。 異年齢の子どもたちと自然な形で出会い、関わり合って仲良くなっている。

最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育参加人数…15 人中 15 人参加 ・ 預かり保育で残る園児が少ない中、預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返りができた。 	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未就園児いちご組 3 歳児預かり保育を実施できた。保護者から多くの喜びの声があがり、1 月からいちご組に入級してくる園児も増えた。 ・ 支援が必要な場合でも個別の対応ができた。 ・ 少人数の幼稚園なので、多様な子どもとの出会いや関わりが少ないという悩みであったが、異年齢や同性の子ども同士の間を保障することができた。 ・ 外部講師を招いたサッカー教室とつくってあそぼうは、子どもたちにとって人気があり、その日の参加者数が増えている。保護者からの要望もあり、次年度も計画に入れる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数の幼稚園だからできる預かり保育、丁寧な保育をさらに高めていく。 ・ さらにきめ細かな個別の対応ができるように計画的に人を配置する。また、ボランティアを募集する。 ・ サッカー教室は、園児や保護者にとっても人気があるので、次年度の早くから設定する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢の幼児と一緒に遊び、楽しむことができる保育をしてもらえて感謝している。 ・ 保護者同士のかかわりの希薄化している中、待賢幼稚園では人数が少ないからこそ、いろいろな話ができているので、ありがたい。

(4) 子育ての支援に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 未就園児親子を対象とした教育相談の実施 ● 幼稚園生活や保育内容説明会での先輩ママと触れ合い ● 未就園児親子を対象とした、在園児や 地域の方と触れ合える取組 (日々の遊びでの関わり、運動会、楽しいつどい、水遊びへの参加など) ● 身長や体重を測り、親子で成長を喜び合う。 	
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数 	

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未就園児との交流…親子遠足 (植物園)、避難訓練、運動会に参加 ・ 子育て支援の取組 ・ ひよっ子クラブの参加者が増えてきた。 ・ 教育相談 (いちご組) 	
自	<p>分析 (成果と課題)</p>

己 評 価	<ul style="list-style-type: none"> 4月中旬からほぼ毎月曜日と木曜日（10：00～11：30）は、子育てボランティアの協力により、未就園児0歳～5歳のひよっ子クラブや3歳未就園児親子のいちご組（月曜日～金曜日の9：00～11：30、9：00～13：40）を通して、子育て支援に関わる教育相談を継続して実施することができた。 月曜日～金曜日9：30～15：00（12：00～13：00を除く）の園庭開放は、降園時の短時間利用ができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、ホームページや地域へのチラシ・ポスターの配布、区役所のチラシ配架など、広報活動を継続して取り組む。 公立幼稚園プロモーションビデオ配信やQRコードを掲載など、情報発信する。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談 未就園児保護者に対するアンケート実施
学 校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 京都市上京区は地価が高く、子育て世代が住みにくい状況にある。 また、3歳児から保育園に通わせている世帯が多く、2年保育では園児が集まりにくい状況にある。そのためにもひよっ子クラブでたくさん子どもに来てもらえるようにする。

最終評価

自 己 評 価	<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 二条城との交流・・・風車をつくって、城内の庭で遊ぶ。 地域とお年寄りとの交流ができた。（年2回）・・・七夕・ひな祭り 二条城北小学校との交流・・・幼保小接続公開保育と研修会・生活科と体育科の授業参観と交流・給食交流・アートフェスティバルの参観
	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度当初に小学校と一緒に交流を考えて実施することができた。 待賢住民福祉連合協議会と一緒に行事を考えて、交流することができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食交流をする時期を再考察する。 地域行事への参加について、さらに協働できるようにする。
学 校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの数が少ない中ではあるが、参加率としては高い水準を保っている。 待賢カーニバルでは、園児の舞台発表でダンスや歌をたくさんの参加者に見てもらうことができて、よかった。 二条城北小学校のアートフェスティバルを参観できて、園児たちにとってとてもいい刺激になった。 高齢者をお招きして、一緒に体験できたことは、お互いによい結果である。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p>
<p>○学校運営協議会 3 企画委員会の取組の検証</p>
<p>A. 親子の学びプロジェクト</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ もちつき、絵本室の整備・貸出、子育て支援センターとしての活動等を行う。
<p>B. からだ元気プロジェクト</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子遠足、運動会の競技、冬のマラソン等を行う。
<p>C. 連携プロジェクト</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小交流、中学校チャレンジ体験受け入れ、グリーンストア等を行う。
<p>○ 地域資源を活かした指導計画作成</p>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p>
<p>交流の回数や地域の方々の声</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」

中間評価

<p>各種指標結果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンストア…地域の方々と花や野菜の苗をプレゼントする交流 ・ 7月7日七夕の集い…地域のお年寄りとの交流 ・ 二条城北小学校交流…幼保小連絡会、1年体育授業参観 ・ 二条中学校交流…チャレンジ体験 ・ 上京中学校…チャレンジ体験 ・ アンケート項目 	
<p>「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」…75%</p>	
<p>自己評価</p>	<p>分析（成果と課題）</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンストアや七夕の集いの地域の人々や保護者の方々との交流を通じて、言葉のやり取りや一緒に物を作るなど、子どもの学びの場となった。 ・ 地域にある小中学校の児童や生徒と園児との交流を通して、園児にとって児童や生徒が憧れやモデルの存在になっている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域行事への参加や協力体制のあり方には、地域とのつながりを大切にしながら、PTA とともに過重な負担にならないよう検討し、改善を図る。 ・ 「待賢カーニバル 2025」に参加し、地域の人々と出会い、交流する。 	
<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の回数や地域の方々の声 ・ アンケート項目「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」 	
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待賢地蔵盆の開催は、50名近くの子どもたちが集まり、地蔵盆を経験し、保護者同士の関わり交流、地域の大人のボランティアに加え、中学生のボランティアとしての参画など、地域の伝統行事として今後もさらに継続させたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のお年寄りの方との交流 (年間2回・七夕・ひな祭り) 二条城北小学校との交流・・・生活発表会・給食交流・アートフェスティバル)
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から、地域とのつながりを大切にしてきた成果がみられる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 待賢カーニバルは、地域行事の一大イベントである。幼稚園児の舞台発表があり、盛大に盛り上がる事ができたが、秋の行事との兼ね合いで園行事の見直しが必要である。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 待賢カーニバルにかわいい園児が参加することで、保護者を中心に地域の方も喜ばれている。 今年度は、交流や園外保育の機会が多く、とても喜ばしいことである。次年度も続けてほしい。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人が生き生きとした姿で子どもと向き合い、心身ともに健康で豊かな生活を送る時間を確保する。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ノー残業デー (毎水曜日) と18時までの電話対応時間の徹底 業務共有ホワイトボードを活用し、校務支援員やボランティアと連携して業務を遂行する。 年休取得日数を前年度より増やす。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」 年休取得日数「1人あたり10日以上」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」を意識した声掛けを行った結果、勤務時間を意識した仕事ができている。 年休取得日数「1人あたり10日以上」が取得できるように、意識改革を行った結果、安心して取得できている。
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の働き方改革に向けて、教職員の意識改革と具体的な取組に努めているが、管理職の時間外勤務の縮減につながっていない。 管理職の時間外勤務時間は、業務と勤務時間のずれが生じており、縮減には至っていない。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職の時間外勤務時間縮減に向けて、実効ある取組を行う。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」

	<ul style="list-style-type: none"> 年休取得日数「1人あたり10日以上」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の数が少なく、負担が過重である状況にある。 非常勤の教員が多いので、打合せをする時間が持たなくて、孤立化し、疲弊している。 管理職が率先して働き方改革を実行しないと、教職員に届かないので、地域行事に管理職は参加しなくていいと伝えている。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の働き方改革をさらに進める上で、持ち帰ってする仕事をゼロにできるように努力する。
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の時間を考慮した働き方改革がすすめられている。 早く帰宅するあまり、持ち帰って仕事をする量が増えている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 通年、取り組んでいた園行事を大きく見直す。 大きな地域行事への参加は、地域と園が協働できるように園行事を考える。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児数が減少傾向にある中、一人一人に寄り添ったきめ細かな保育ができています。これも教職員の努力でできていることに感謝したい。